



奈良町にぎわいの家「つし2階アート企画」 作 ローレン・カペリ



奈良町にぎわい通信

Vol.54

二〇一九・寒露〜霜降

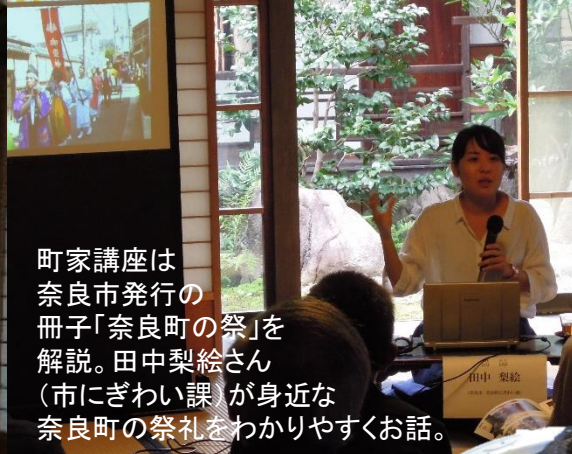
発行
奈良町
にぎわいの家



Loren Capelli ローレン・カペリ
絵本「Cap!」より



恒例の節気講座は
俳人の倉橋みどりさん。
俳句もクイズ形式で更に身近に。



町家講座は
奈良市発行の
冊子「奈良町の祭」を
解説。田中梨絵さん
(市にぎわい課)が身近な
奈良町の祭礼をわかりやすくお話。



「これが奈良漬けだ！」
今西泰宏さんがテレビ
番組で紹介された映像も
交えてのお話。



今西泰宏氏
(今西本館 館主)

食欲の秋！



おはぎ作り体験！



お供えしました。



かまどご飯とともに、奈良漬
を皆でいただきました。

奈良町にぎわいの家 9月のイベントから



海外の皆さん、にぎわいの家の風景。



スタッフによる恒例の水墨画と
絵手紙体験で。



フランス人アーティスト
ローレン・カペリ
絵本朗読会。
詳細は次ページに。



当館の裏庭産！

栗ごはん
におはぎに
かまど大活躍！



新企画！「海外のお客様インタビュー」Vol.1～イスラエルより



Name エラザールご夫妻
Country イスラエル
Age 59歳
Interview 2019/10/7

(上写真中央は、当館英訳スタッフの辻さん)



「葉」？！

Q1. 奈良は初めてですか？選んだ理由は？

日本にはこれで2回目で、奈良は初めてです。京都が好きで、前回は京都を楽しみました。今回、4日間の日程でしたが、京都は2日でまわり、後2日を奈良にしました。フェイスブックでつながっているグループの人が、いろいろと日本の旅の情報を教えてくれて、来日の参考にしています。

Q2. 奈良のどこが気に入りましたか？

ボランティアガイドが見つからず、有料ガイドの方に奈良公園、鹿、春日大社を案内してもらい、とても良かったです。ところで、神社とお寺の違いは何ですか？私達にはわかりにくいのですが。(ご説明しました。)

Q3. 当館をどう思いますか？お気に入りの場所で写真をとりたい。

座敷がずっとつながっていて、見渡せるのがよいですね。ただ、正座は、5分と持ちませんでした。タンスがないですね。服はどこにしまっているの？

Q4. これからどこへ行かれますか？

利き酒をしに、酒屋さんに行きます。

Q5. お土産は何を買いましたか？

京都で、芸者さんの着物姿や、お寺の絵のついたマグネットを買いました。小さいものが好きなので、鹿の置物やお猪口など買えたらいいですね。

Q6. あなたにとっての「家」とは？

家族とともに住むところ。

明るい奥様、見守るご主人。とても仲良しのお二人は、御霊神社に参拝したとのこと。その折、奥様が「良いご縁があるように」とお祈りしたら、すかさずご主人が「これから新しい縁とはどういうこと？！」とご機嫌斜めになったとの話。本当に愛妻家ですね！奥様は、スタッフのお茶の稽古にも参加、スタッフが「葉はナツメからきています。イスラエルではナツメによく似たナツメヤシを食べるのですよね？」との話にうなずいておられました。

(構成・文 おの・こまち)

ローレン・カペリ 絵本朗読会

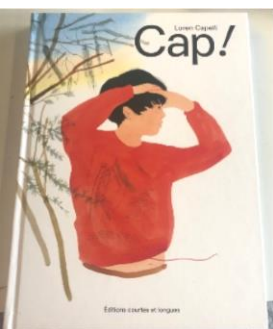


9/6-24に開催された、「つし二階アート企画vol.19」(コーディネート・内田千恵)の展示作家、ローレン・カペリさんのフランスで出版されたばかりの絵本、「Cap!」の朗読会を9/7、行いました。「Cap!」は「できるよ!」で「針路」や「方向」という意味もあるとのこと。成長の過渡期にある少女がアスファルトの現実世界から

自然の中へ冒険するお話です。ローレンがまず、仏語で読み、続いて満田智子さん(小町座)が日本語で披露しました。ローレンの声はとてもナチュラルで、優しい響きが、座敷に独特の空気を醸し出しました。観客は、絵本の翻訳家の方やフランス語の堪能な方も多く、言葉の響きを楽しんでおられるようでした。座敷での朗読、本当は障子も開け放ち、裏庭の緑と一緒に味わいたいというローレンの希望もありましたが、9月の暑さには空調優先で…。

この少女のように「自然」とつながる「家」でありたいなと思いました。絵本の最後の言葉を紹介します。

「一番、大切なものを手に入れたと思ったらね、ほら、こうして根元を掘り起こすのよ。」と言っていた少女にこの本を捧げる。



山なみの空澄みわたり
百舌鳥のこゑ高くひびけり
初霜の朝

山並の空が澄み渡り、百舌鳥の声が高く響く、霜降、初霜の朝です。



オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク
はぎデザイン
金田あおい(藍寧舎)

事務局だより

2019

霜降

秋の声

事務局長 藤野正文

10月になり今年もう半分過ぎたのかと思う間もなく、本格的な秋に。露が冷気によって霜となつて降り始める霜降(そうこう)は10月24日。

秋の七草は、秋に咲く草花の中から選ばれていて、昔は野を散策して短歌や俳句を詠んだそうです。春の七草と違って秋の七草は食べませんね。また、特になにか行事などがあるわけでもないように、目で見て楽しみ、季節を感じるもののようです。おみなえし(女郎花)、すすき(尾花)、ききょう(桔梗)、なでしこ(撫子)、ふじば(藤袴)、くず(葛)、はぎ(萩)。秋の七草の歴史をたどると「万葉集」の山上憶良の歌にたどり着き、憶良はここで特にこれらの花が美しいというわけではなく、野に咲く花として挙げています。

また、涼しくなると聞こえてくるのが虫の声ですね。日本(東アジア?)では、虫カゴに入れて鳴き声を楽しむ習慣があるのですが、西洋では見られないとか。これは日本人独特の感覚のようで、西洋では虫の声をノイズととらえるといわれ、虫の声を認識しても季節感を感じることはないようです。また、小さいころ、朝の道路に霜が降

りしているとザクザクとした音を楽しんだ記憶があります。小さなころから知らず知らずの間に季節の移り変わりを感じていたと思えます。今は温暖化?で、アスファルトの道で、霜を踏むこともめったになくなりましたが、これも記憶の中に刻み込まれている音の風景だと感じます。

よくわかりませんが、日本語では母音が比較的重要であり、「虫の声や自然の音を言語のように左脳でとらえている」とか。日本人が独特に持っている「野に咲く花や虫の音・自然の音」を愛でる心を大事にしたいものです。



お月見のしつらえと。

にぎわいの家で
ママと秋を見つけたよ!

裏庭で収穫した果を持って。



レトロモダンなお二人が!
思わず、声をかけてしまった素敵なお二人。大和高田と名古屋よりお越しのお客様。大正生まれのにぎわいの家に大正浪漫風のレトロな雰囲気のお召し物がぴったり。帽子から鞆まで、近くのお店でコーディネートしてとのこと。さわやかな秋、着物が楽しめる季節ですね。皆さんのご来館、お待ちしております。



奈良町にぎわい通信vol.54

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館

〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

書: 逢香



奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



寒露



霜降

10/8~22

10/23~11/6

秋ふかき地下の茶房にひっそりと

パイプくゆらす永久(とわ)の帰郷者

前登志夫